県政報告 磯っ子レポート
2024年5月号《vol:167》
発行：県議会議員 新井絹世政務調査事務所
編集：新井絹世
磯子区丸山2-10-6　TEL 045-751-5250

自民党 県会議員

次代の安全・安心へ　納得できる県の政治

あらい絹世

神奈川県が取り組む

ケアラー・ヤングケアラー支援

ケアラーとは、心や身体に不調のある人の介護、看病、療育、世話など、ケアの必要な家族や近親者などを無償でケアする人のことです。こどもや若者、育児と介護などのダブルケア、老々介護を担っている人など全世代にわたって存在していますが、この中で、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートを行っている18歳未満の子どもをヤングケアラーといいます。
近年、少子高齢化や核家族化の進展、共働き世帯の増加、家庭の経済状況の変化といったさまざまな要因がある中でケアラーに過重な負担が掛かっており、ケアのために自分の望む人生や日々の暮らしが送れず人知れず社会的に孤立する方もいるなど、ケアラーへの社会的支援は喫緊の課題です。

ケアラー支援を社会全体で支えることを目指して

ケアラーの実態を調査

神奈川県では2021年２月、初の「ケアラー実態調査」を実施。**調査結果は①ケアラーなどの言葉を知っていたのは約３割で、ケアラー自身がケアラーであることに気づいておらず、必要な情報が行き届いていない可能性がある②65歳未満のケアラーの中での就労中の割合はですべての年代で５割以上だった③ケアラーが求める支援は「役立つ情報の提供」「緊急時に利用できて被介護者の生活を変えないサービス」などの回答が多くありました。**
県ではこれを踏まえ2022年度から「ケアラーの居場所づくり」「ケアラーズカフェや相談窓口、ケアラー支援専門員」の設置や拡充を進めています。また企業対象に2018年度から「かながわサポートケア認証制度」をスタート。仕事と介護の両立を支援している優良企業を「かながわサポートケア企業」と認証し、2024年3月現在27社が対象となっています。

ケアラー・ヤングケアラーはこんな方々です。

イラスト／神奈川県

家族に代わり、幼い兄弟の世話など

障碍や病気のある兄弟の世話や見守りなど

難病・精神疾患など慢性的病気の家族の世話など

障碍や病気のある兄弟の身の回りの世話など

障碍や病気のある家族の入浴やトイレの介助など

ケアラー支援事業の拡充へ

今年度予算で計上

◇ ケアラー支援の相談窓口や支援専門員の設置、居場所づくりを行う団体などへ補助へ　4988万円
◇ ヤングケアラーへの家事支援を行う市町村へ補助へ　1376万円
◇ ケアラー・ヤングケアラー自身や周囲の認知を高めるための普及啓発へ　759万円
◇ ヤングケアラー支援の学校対応へ　8億9089万円　　以上の予算が計上されました。

神奈川県は、ケアラー・ヤングケアラーの相談を受け付けています。

―― ケアのこと、ひとりで悩まないで ――

相談対象者は神奈川県在住のケアラー・ヤングケアラー、ご家族、友人、近隣の方からの様々な相談を受け付けています。

電話　045-212-0581
水曜・金曜日　10時～20時
日曜日　10時～16時

ライン

あらい絹世の 歩いて見る！
磯子のまち　あれ？ これ？

磯子一 ～ 四丁目
（〒235-0016）
人口：10,251人　　世帯数：5,571世帯　（令和６年３月現在）

磯子は一丁目から八丁目まであり、一丁目から四丁目は、国道357号線と磯子旧道に挟まれた八幡橋からＪＲ磯子駅辺りの区域で、かつては根岸湾に面し潮干狩りのできる海水浴場もありました。歴史を辿ると、浜バス停付近から磯子区総合庁舎近辺にかけての国道16号と磯子産業道路の間は、道路建設や宅地造成を目的として葦名金之助が安藤庄太郎（安藤建設創業者）の援助を受け埋め立てられました。それ以前は屏風浦の崖が海岸沿いまで迫っており交通が困難で明治中頃までは、旧間坂交番あたりから杉田方面へ向かう道は無く、船を使うか汐見台から山伝いに港南区笹下に出て、杉田へ向かうしか有りませんでした。その為、明治時代に間坂交番付近とプリンス坂の下に二度に渡ってトンネルが掘られましたが、関東大震災で半壊。その後の海岸線の埋め立てにより新しい道路が整備されその役目を終えました。1908年（明治41年）3月には金沢方面に通じる道路が開通し同年12月、磯子一丁目に、禅馬ウォルクス（後のバブコック日立）が操業開始。1940年11月には、同じく磯子一丁目に日本発条横浜工場が操業を開始しました。1954年10月、旧東伏見邦英伯爵別邸（横浜市の歴史的建造物に認定され現存）を横浜プリンスホテルとして開業しました。
二丁目から三丁目にかけて、戦前から昭和30年代まで花街として栄え、料亭・芸者置屋・見番や三味線修理・髪結い・染物屋・和装店などがあり賑わいましたが、売り物であった目の前の海岸の埋め立てや接待の場が関内などに移ったことから衰退し、1968年には最大の料亭であった偕楽園も姿を消し跡地は、商業ビル「磯子アイランド」となっています。

「神奈川県庁舎 各 階」　教育局・生涯学習部 生涯学習課

生涯学習部生涯学習課は、3つのグループで業務を推進しています。調整グループは、県立の図書館、博物館などの社会教育施設の運営管、課の予算及び決算業務理など、**企画推進グループは、**生涯学習の振興に係る企画・調査研究、県立学校開放事業の支援、県立の社会教育施設で行う公開講座事業の支援、家庭教育の支援など、**社会教育グループでは、**PTAなど社会教育関係団体の育成、指導地域教育力の活性化へ向けての支援、子ども読書活動の推進、社会教育の推進役「社会教育主事」の養成など生涯学習の振興、社会教育の総合推進に取組んでいます。
子供の読書活動は「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」です。神奈川県では「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成16年「かながわ読書のススメ～神奈川県子ども読書活動推進計画～」を、令和6年3月には「『友のように いつも そばに 一冊の本を』～本との出会い、本から拓く 思いやり 心のつながりを大切に～」をスローガンに掲げ「かながわ読書のススメ～第五次神奈川県子ども読書活動推進計画～」を策定しました。この計画では「平日の一日の読書量が10分以上の子どもの割合」を小学生69%、中学生53%、高校生30%としています。

神奈川県の社会教育施設には、「県立図書館・川崎図書館」「金沢文庫」「近代美術館　葉山・鎌倉別館」「歴史博物館」「生命の星・地球博物館」があります。紅葉坂の「県立図書館旧本館」は日本のモダニズム建築をリードした前川國男氏が設計した貴重な資産で、開放感のある吹抜け空間を活用し「魅せる図書館」として改修を行なっています。2022年9月には、「本を介して利用者同士の交流を促進する交流スペース」や「飲物や会話を楽しみながら読書を楽しめるくつろぎスペース」 などを備えた本館新棟が以前の収蔵庫の場所に開館しました。
県立図書館の再整備に、今年度は収蔵館の改修工事など約30億円が計上されています。
また、旧横浜正金銀行の本店として1969年に国の重要文化財の指定を受けた「歴史博物館」は、エレベーターの改修工事及び監視カメラ・防犯センサー更新工事などに4800万円が計上されています。（令和７年１月から令和８年９月まで工事により休館）

歴史博物館（エースのドーム）

神奈川県立図書館

昭和43年　横浜市磯子区生まれ。　明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業。
　　日商岩井株式会社に８年、株式会社メタルワンに５年勤務。
平成23年　神奈川県議会議員選挙 初当選 以後連続4期トップ当選。
　　県民スポーツ常任委員会・厚生常任委員会・予算委員会など各委員長を歴任。
現　在　　文教常任委員会委員、産業振興・環境対策特別委員会委員、自民党神奈川県連副幹事長。